



1 打製石鏃（だせいせきぞく）

【重要文化財】

朝日遺跡（清須市・名古屋市西区）
弥生時代
本館蔵

朝日遺跡では、多数のヤジリが出土していますが、中でも多いのは、打ち割って作られた打製石鏃です。平面形が五角形で大型の石鏃は「朝日型長身鏃（あさひがたちょうしんぞく）」とも呼ばれています。



2 骨鏃（こつぞく）

【重要文化財】

朝日遺跡（清須市・名古屋市西区）
弥生時代
本館蔵

朝日遺跡では、動物の骨やシカの角で作られたヤジリ（骨鏃）も出土しています。様々な形のものがあり、写真左のように、石鏃の形を摸して作られたと見られるものもあります。



3 シカの骨に刺さった石鏃（せきぞく）

【重要文化財】

朝日遺跡（清須市・名古屋市西区）
弥生時代
本館蔵

朝日遺跡では、石鏃が刺さったシカの腰椎骨（ようついこつ）が出土しています。この石鏃の形や矢が射込まれた状況から、弥生時代の狩りの様子を復元することができました。



4 鉄鏃（てつぞく）

松崎遺跡（東海市）
古墳時代

愛知県埋蔵文化財調査センター蔵

弥生時代後期からは、金属製のヤジリ（鉄鏃）が普及し、石鏃はしだいに姿を消していきました。写真は古代の鉄鏃です。本企画展では、県内の弥生時代から戦国時代にかけての銅鏃（どうぞく）、鉄鏃も取り上げます。



5 火縄銃の弾

石座神社遺跡 (いわくらじんじゃいせき)
(新城市)

戦国時代

愛知県埋蔵文化財調査センター蔵

戦国時代に火縄銃が登場すると、弓矢を基本とする飛び道具の歴史は大きな転換を迎えました。企画展では、新城市の石座神社遺跡などから出土した火縄銃の弾も展示します。



6 矢

パプアニューギニア民族資料

現代

南山大学人類学博物館蔵

南山大学の東ニューギニア学術調査団が収集した貴重な民族資料から、弓、矢、矢筒などの資料を展示します。写真は竹製のヤジリと鉄製のヤジリを装着した矢です。考古資料では断片的にしかみられない弓矢の全体像がうかがえます。

写真撮影：あいち朝日遺跡ミュージアム